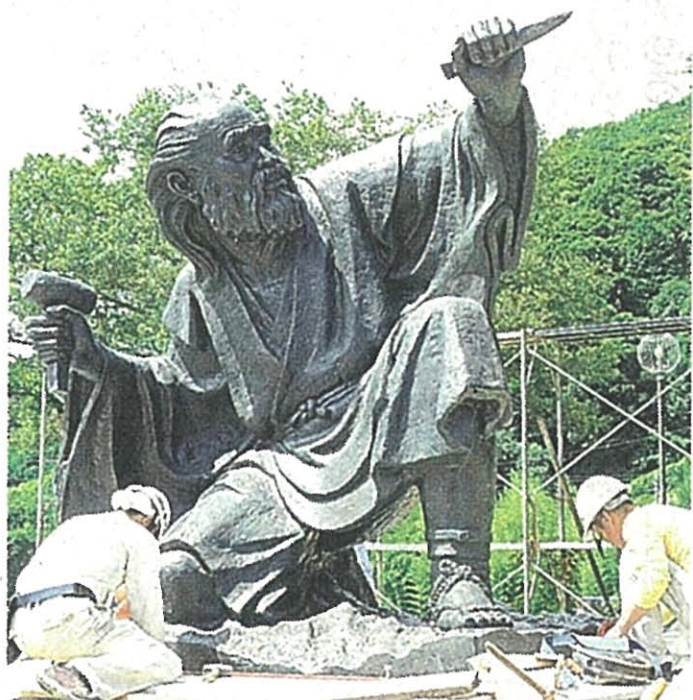


周藤弥兵衛の銅像建立



周藤弥兵衛の銅像を設置する作業員

松江の研究所 1日に除幕式

松江市八雲町を流れる意
宇川を江戸時代に開削した
周藤弥兵衛（1651〜1752年）の銅像が、同市

八雲町日吉の意宇川沿いの日吉公園に建てられ、8月1日に除幕式がある。財団法人・人間自然科学研究所（松江市乃木福富町、小松電機産業内）が制作し、八雲町の周藤弥兵衛顕彰会に寄贈した。

弥兵衛は、岩山に阻まれた意宇川の氾濫に悩まされていた村のために、56歳から97歳まで40年余をかけて岩山に切り通しを設けて川の流れを変え、水害を減らした。同研究所は、

伝記を出版するなど、弥兵衛の顕彰活動を続けている。銅像は高さ2・65メートル、幅2・8メートル、奥行き1・7メートルで、のみとつちを手に岩山を開削する姿を表現している。中国で制作。本年度施行の水循環基本法で「水の日」に定められた8月1日に除幕することにした。

研究所の小松昭夫理事長（70）は「人々のため立ち上がった周藤弥兵衛の志を現代によみがえらせ、地域の発展につなげたい」と思いを語り、顕彰会の矢野秀行会長（60）は「偉人の功績を広く知ってもらい、公園が良き交流の場になるよう活用したい」と話した。